

平成29年度

第4回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録  
(平成30年2月 第四回)

- 1 日 付 平成30年2月3日(土)
- 2 場 所 海老名市役所401会議室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘  
教育委員 平井 照江 教育委員 酒井 道子
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎
- 参事兼教育支援課長兼指導主事 小宮 洋子 教育総務課長 吉川 浩
- 就学支援課長 奥泉 憲 教育支援課主幹兼指導主事 小林 丈記
- 教育総務課総務係長 阿部 優文 教育総務課施設係長 加賀 丈仁
- 教育総務課主査 志村 政憲 教育総務課主事 神福 壽子
- 教育総務課主事補 鈴木 貴博
- 5 開会時刻 午前10時30分
- 6 協議事項
- (1) 「新えびなっ子しあわせプラン」について
  - (2) 海老名市部活動方針について
  - (3) 海老名小学校児童からの学校生活に関する提案について
- 7 閉会時刻 午前11時55分

○**教育部次長** ただいまより、平成29年度第4回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日司会を務めさせていただきます教育部次長の金指と申します。よろしくお願いいたします。

なお、進行につきましては、先ほどお配りさせていただきました次第によって進めさせていただきますと思います。

それでは初めに、市長と教育長からご挨拶を頂戴したいと思います。

○**内野市長** おはようございます。平成29年度の総合教育会議、4回目になりました。今年度はこれで最後だと思いますけれども、各学校のブロックに分けながらやってまいりました。直接生徒の皆さんやお話をさまざま聞いております。本日は児童の皆さんからお話を聞く機会があるそうでございまして、私どもそういった声を大事にしていきたいと思っています。あるいは、保護者の皆さんから何かあれば、本日多くいらっしゃいますのでよろしくお願ひ申し上げたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

○**教育部次長** ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。本当に多くの人に集まっただき、ありがたいです。私としては、教育委員等を含めて教育が閉じられた教育委員会の中だけでなく、市民の方々がそれを一緒に考えられるような土壌。市長がそうすべきだということなので、どんどんそれを進めてきて、ここに至ったということで、我々のこの中の話し合いなのですけれども、皆さんに聞いていただいて、また、子どもたちも提案しますので、何かご意見があったらまたお聞かせいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○**教育部次長** ありがとうございます。

それでは、協議に入る前に、総合教育会議について説明をさせていただきます。

この総合教育会議は、市長と教育委員会が連携し、教育大綱、あるいは教育の条件整備等の重点的に講ずべき施策などについて協議調整をする場になります。その結果、調整が図られれば、その結果を教育委員会、市長部局ともに尊重するというものでございます。

また、先ほど市長からもお話しがありましたけれども、会議中、市長から保護者など傍聴の皆様意見を求める場合もございます。時間も限られておりますので、発言の際には

簡潔にお願いしたいと思います。

また、協議事項(3)で海老名小学校児童に本日お越しいただきまして、学校生活に関する提案をいただきます。市長、教育委員会、そして児童5名が一緒になって協議いたしますので、ご承知をお願いしたいと思います。

それでは、次第3の協議に入りたいと思います。案件につきましては、お手元の次第のとおり3件となっております。

ここからの司会につきましては内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長、よろしくお願いいたします。

---

○内野市長 それでは、協議事項(1)「新えびなっ子しあわせプラン」についてを議題とします。

これにつきましては、伊藤教育長から説明をお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、お時間をいただきたいと思います。

えびなっ子しあわせプランということで、私、3年間、このことに取り組みました。目指すのは、子どもたちが本当に将来幸せに生きるための力をつけるのは学校という場だということ、少なくとも小中学校9年間でその力を身につけてほしいと思っていました。そういう中で、子どもたちが身につける3つの力ということで、実を言うと本日、海老名市の先生方がみんなで作った冊子が後ろに並んでいます。もしお帰りのとき、時間があったら、この3年間でそれだけの本、成果物をつくって、先生たちが取り組んだのです。教育委員会がメインで取り組んだわけではなくて、先生たちがみんな委員で集まってきて、それをつくってくださいました。そういうことで、子どもたちにこういう力をつけさせる。

それから、新たな学校体制づくりで、小中一貫教育、コミュニティ・スクール。小中一貫教育は今年から全部が始まっています。コミュニティ・スクールは来年度から始まるのですけれども、神奈川県内というか、全国でもこれが全てベースとしてそろって、市全体として取り組んでいるのは本当に珍しいケースなので、海老名市としては、できるだけその先を見据えて学校の新しい体制をつくりたいと取り組んだところでございます。それが私にとっては3年間の大きな成果なのですけれども、それでは、この後、どういうことに取り組みたいかということで今考えています。

これです。3つ取り組みたいと私は思っています。1つは授業改善と——少し教育的な

言葉でわかりにくいかもしれませんが、この後説明します。2つ目は社会に開かれた教育課程、3つ目はみんなの学校、これを重点に、子どもたちが幸せになるように、学力とか、集団力、健康安全力、学校体制をさらに充実していきたいと考えています。少し1つ1つ説明します。

授業改善というのがあるのですけれども、学校って、一番長い時間は授業なのです。その授業を先生たちや子どもたちがつくるわけですが、私はこの授業を次の3年間で改善したいと思っています。どういうことかというと、授業って、主体者は子どもたちなのです。学習するのは子どもたちです。でも、その子どもたちが本当に主体者になり切れているのか。要するに、先生たちが限られた知識をただ教えるだけの授業になっていないかなと思うのです。これから子どもたちが未来でどういう生活をするかということ、新たな知識がさまざまやってきて、その知識をただ覚えるだけでは絶対に生活できないのです。それ以上、自分で物事を受け取って考えて、友達と協力して話し合っ、それを問題解決する力が絶対に必要になります。ですので、海老名市の、例えば簡単に言うと授業の中では常に1人1人が考える時間がある、みんなで話し合う時間がある、自分の意見を発表する時間がある、自分の1時間を振り返る時間がある、そういう授業モデルの中で全ての授業が行われるように全教職員と一緒に研究して、3年間の中で新たな授業の形に変えていく。もちろん常に校長先生方は言いますが、どの学校でもそういう授業の研究を毎年毎年行っているのですけれども、さらに海老名市として一歩進めて、このような授業。要するに子どもたちが本当に1時間1時間、生き生きと自分でいろいろ取り組んで、学習活動が保障される授業を展開したいと私は思っています。

2つ目は、社会に開かれた教育課程。少し難しいのですけれども、私が危惧しているのは、子どもや学校って社会から取り残されるのではないかなと結構危惧しています。というのは、子どもたちが学校で学んだことが本当に社会生活に汎用的に常に応用できるかというと、そうではなくて、学校は学校で勉強したこと、社会の生活は生活のこと。でも、子どもも現実社会で生きているわけです。そのように考えたときに、本当に社会と学校が繋がらないと、子どもたち、学校は隔離された1つの特別な社会になる。それだけは避けたいなと思っています。方法としてはそんなに難しいことはないわけです。皆さんに学校に来てもらって、学校の先生の役割を担ってほしいのです。子どもたちが学校にいただけではなくて、学校を飛び出して、地域で学習してほしいのです。それは今までもやってきていますので、それらをかき集めて、どんな形になるか、さらに充実させるのです。

海老名市には、本当にいろいろな力を持った方々が実際いらっしゃるのです。その方々が学校に来て、子どもたちにその姿を見せてほしいのです。子どもは教師という限られたお手本が目の前にいて、1年間過ごすよりも、かなり多くの人たちがお手本として、さまざまな大人たちがお手本を示すことが本当に幸せになるのです。そういう意味で、学校を閉じることなく、新しい学習の形の計画を立てられないかなということで私は3年間取り組んで、研究してみたいなと思っております。でも、実際今、どこの学校でも、どこの小学校でも、中学校でもこれはやっているのです。それをもっともっと広げたいと私は思っています。

そして3つ目、最後ですけれども、みんなの学校ということで、ここにあるのですけれども、海老名市は小中一貫教育、コミュニティ・スクールって、学校または社会に開かれた教育課程を広げていきます。でも、この視点はまだ学校中心の視点なのです。これは少し先の目標にはなるのですけれども、コミュニティ・スクールとか小中一貫を進める中で、この視点を忘れないように3年間やりたいなと思っております。私は、学校の理想は、学校という建物の中に子ども、要するに地域の赤ちゃんからお年寄りまでがみんなが集まってきて、そこで学ぶ場が学校であるという理想形を考えています。要するに子どもたちと先生たちだけの場ではなくて、多くのその地域に住んでいる人たちがみんなそこに集って、そのライフスタイルの中のその時々学べるような場所をつくるのが学校の使命だと私自身は考えています。そういう意味で、みんなの学校であってほしいのです。

私は、前回の3年間はおらが学校というタイトルを示しました。次の3年間はみんなの学校という形に学校を変えていければいいかなということで、これを次の3年間の計画として、もちろんいらっしゃる校長先生方とも十分話し合って、地域の皆さん、保護者の方も含めて話し合って、ご意見をいただいて、授業を改善すること、教育課程を社会に開くこと、そして学校をみんなの学校にすること、その3つを重点に、その結果によって、子どもたちが将来幸せになって生きる力をそこで身につけること。それから、そこに関わってくる大人の方々が学校に関わることによって、生きがいになったり、楽しかったり、自分の今が幸せになることを願って、今度は新たな第2期のえびなっ子しあわせプランを進めてまいりたいと今構想を練っているところでございます。

こういう中で、具体は校長先生方と私でよく話し合うのですけれども、また、PTAの会長さん方と話し合いながら、また、地域の方と話し合いながらそれを進めてまいります。また、来年度は全部の学校がコミュニティ・スクールになりますので、コミュニテ

イ・スクールって、簡単に言うと話し合いの場ですので、そこに地域の方、代表の方々に入ってきていただいて、こういうことも話し合っていたきたいなと思っているところでございますので、よろしくをお願いします。

本当に概略的に、具体は示せてはいませんが、そのような形でこれから海老名の学校は進むのだ。学校教育だけです。そのほかの環境などは市長などかまたやるのですが、学校教育の内容についてはこの方向性で私は進めてまいりたいと考えています。それをご紹介いたしました。

**○内野市長** ただいま教育長から、新えびなっ子しあわせプランの説明がありました。教育委員の皆さん、何かございますか。

**○酒井委員** 先ほど授業の改善のところで、1人1人が考えて、みんなが話し合って意見を発表するという、もちろんそのサイクルはとても重要だし、これからの世の中、今までのように配られた問題を解くという力ではなくて、問題を探してきて、解決する力が求められていると思うので必要だと思います。その上で今、基礎的な学習の能力というのですか。計算とか、学校で今やっている教科書の内容というのをまずはしっかりと身につけてほしい。よくわからないのだけれどもというふうな子どもがいないようにするための施策というのはどのようにお考えでしょうか。教育長、お願いします。

**○伊藤教育長** ちょっと教育的な内容で難しいことを言うかもしれませんが、聞いていてください。

例えば算数で基礎的な計算とか文字を書いてやるのも、実を言うと、今までどおりのスキルで、毎回やりとりで黙々とやって、それが本当に十分身につくのかどうかということを考えるのです。これは直接的には全国学力・学習状況調査で、海老名市はいつも漢字をよく書けないという結果が出ているのです。でも、各学校で絶対漢字練習は必死になってやっていて、子どもたちはノートに何十字も漢字を書いて、先生に見せて、丸をもらっているはずなのです。でも、身につかないというのはどういうことかということ、学習の中身自体、身につけるといことは活用することなので、もちろん基礎的なものを練習する時間は確実に学校にはあります。ただ、その身につける時間も、もっと身につけるためには自分で書いたものを友達と交換して、うまく書けたねなど、お互いにコミュニケーションをとったり、それを活用する言葉をつくり上げたりするという授業に変えなければいけないのですよ。だから、ご心配の基礎的な学力を身につけるのにも授業の改善が必要だということです。ただ黙々と漢字練習するのではなくて、漢字練習したものを使って、子ども

たちがお互いに話し合う時間がちょっとあったら、もっとそれが身につくかもしれないということです。また、実生活でそれを活用するようなもの。例えば作文を書くとき、しっかりメモの感想、振り返りを書くときもそのような形で使うとか。だから、今の授業の形で基礎的な力を進めても、その基礎的な力が確実につくかという、基礎的な力を確実に身につけるためにも授業の改善が必要だという考え方なのです。教員的な話ですみませんでした。

○内野市長 元先生だった平井先生、どうですか。

○平井委員 今、話が出ているようにただ練習させればよいというわけではなくて、やはり教育長がおっしゃったように、これからは社会に出たときに活用できるというふうに。今までだったら漢字を1列練習すればよいということではなくて、やはりそこに学びの工夫を先生たちが考えないと今までどおりの指導になってしまうと思うので、今回、海老名市の全教職員で研究をしていくということなので、私は常々それは必要だとずっと思っていますので、とてもよいことだと思います。その中で、やはり子どもたちに何をわからせたらよいのかな。教科書ももちろんあるのですけれども、そののところを先生たちがしっかり持っていかないと、小学校は1時間が45分ですが、貴重な時間なのです。だから、その狙いをしっかり持って、先生たちが教材研究をすることが一番かな。そのためには、その時間を確保できるところまで持っていかないと、今の先生たちの状況の中ではなかなか教材研究に充てる時間はないのかなと思いますけれども、市全体として取り組むということなので、そこは今後、私たちも支援しながら、ぜひ先生たちの力もつけながら、子どもたちの学力向上につなげていきたいなという思いはあります。

○松樹委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。

今言った新えびなっ子しあわせプランでございますけれども、私は全く同感でございます。特に3番目のみんなの学校という考え方は、今までハードルが高いといえますか、学校の中で地域が入り込む、また、学校が地域に出ていくというのはなかなか壁があったように感じるのですが、やはり学校はみんなの学びやであってほしいというのが私が思っているところでございます。川崎のはるひ野小学校だと思うのですが、1回視察に行かせていただいて、小中一貫の校舎と、それにプラス、今の海老名で言うとコミュニティセンターがくっついているのです。学校の中というか、同じ建物なのです。管理は民間の方が全部管理をしてという形の中で、朝、おばあちゃんと一緒に子どもが登校するだとか、帰り、講座が終わって一緒に下校するとか、そんな光景が見られ、中にはいろいろ試行錯

誤なんていうお話もちよっとお伺いしましたけれども、まさにみんなが学べる学校、集える学校があったら、私は本当に地域と連携ができて、また、子どもたちの教育にとっても本当によい話なのではないかなと思います。まさにこれは私も同じように進めてまいりたいと思っております。

**○海野委員** 私も今回の教育長が出された授業改善、社会に開かれた教育課程、みんなの学校の3つの重点課題はとても素晴らしいことだと思います。先日ICTを活用した授業参観に行かせていただいたのですけれども、先生だけで使いこなせる先生もいらっしゃるでしょうけれども、社会に開かれた教育課程ということで、地域の方を取り込んで、先生と同じように子どもたちに指導してもらう場がこれから必要ではないかなと思いますので、ぜひこの3つの重点は今後とも皆さん、さらにスキルアップして取り組んでいけたら、素晴らしい子どもたちが成長するのではないかなと思いました。

**○内野市長** 酒井委員、初めての登場ですが、何かございますか。

**○酒井委員** 初めてなので緊張しますけれども、例えば社会に開かれた教育課程とか、みんなの学校というのでオープンにしますよね。来てくださいと言って、来ていただいて、教えていただく。それはすごく素晴らしい制度だと思うし、うまく運用できれば子どもたちにとっていろいろな大人と接点ができてよいことだと思います。その上で、そのように講師の役割を果たしてくださった方というのはどのように処遇といたしますか……。例えば丸々1日プログラミングを教えてあげますよという方がいらっしゃったとしても、その方にお支払いする報酬はどのようになるのか、市長にお考えをお聞かせいただければと思います。

**○内野市長** 基本的に今、部活動も、後ほどありますけれども、指名された人へはそれなりに報酬は払っているのですね。そうすると、学校にかかわる問題って、今回の教育に関する委員を決めても、1日2,000円なのです。2,000円でどうなのという問題があって、やはりここら辺が、福祉もそうなのですけれども、ボランティア、ボランティアで来ているのですね。1人の障がい者に対してボランティアさんがいる。ところが、無償ボランティアですから、責任がないのですよ。結局この日に来てくれと言っても、来てくれない。そこに今までやってきた奉仕的な精神、ボランティアというものを、高齢福祉、障がい福祉もそうでありますけれども、少し見直していこうという考え方を持っています。その部分ではやっていただく。少子・高齢化ですから、人材不足だってあるのですね。介護の人材もそうですけれども、広くやりたいという人がいたら、責任を持ってやるというのは、や

ったことに対してそれなりの対価というか、責任があるわけですから、それに対する位置づけをしっかりとしていこうよと。今の市としての考え方はそうなっています。教育委員会もそういった部分では人材が多く地域にいらっしゃるので、そういった方を集めた段階で人材バンクをつくって、その中でその人たちの意向というのもあると思います。私は働きたいのだ、いや、私はお金は要らないんだ、いろいろ分かれると思うのです。けれども、そこには、お互い共通するのは教育に関する責任があるわけですから、その責任は持っていただく。しかし、それに対して、教えるということは、やっぱりそれなりの責任があるわけですから、それ以外の位置づけをしっかりとすることによって、そういった部分を解決していけるだろうと思っています。

今回のプランはどう見ても抽象的な、理念的なものが多いと思います。これを具体的にするのはすごく大変で、例えばの話、地域と地域コミュニティといっても、各学校は学区で成り立っています。そうしますと、その学区がその地域の地域コミュニティに合っているかという、合っていない場合があります。例えば杉本小学校は、柏ヶ谷の人もいるし、あるいは国分北四丁目の人もいらっしゃって、それからルネもいらっしゃって、地域と学校の学区が合わないのですね。そうすると、地域という、どうしても地域コミュニティは、各地域の人は自治会単位で物事を考えます。学校の地域は学区で考えますから、当然そこで、よい悪いではないのですけれども、これから少子・高齢化ですから、学区をある程度今後の地域ということと結びつけていかないと、空論に終わってしまうだろうと思っています。

だから、地域の捉え方っていろいろあって、子どもの人数で大分違いますから。ある地域は全く子どもがいなかったなと思ったら、ぽんと増えていく。有馬小学校みたいに、有馬小学校といたら、もう歴史が70年以上あって、学校が1つになるなと思ったら、有馬小学校自体の子どもがもうすごく少なくなってしまう。ところが、門沢橋、社家は増えているのですね。そうすると、じゃ、例えば3つの小学校を一緒にしようといっても、門沢橋を中心にすると言ったら、今度は有馬のほうが怒るわけです。今後の地域コミュニティと学校のコミュニティ・スクールというのは、これからの学校のあり方を左右していくのだろうなと思っていますので、具体的に何をやっていくかというのは今後の問題であると思っています。

先ほど冒頭の講師の関係とか、そういうのはすぐにしないといけないと思っています。なぜかという、非常勤であろうが、行政で位置づけをしっかりとした人がその現場に行っ

て、家に帰るまでの間は公務災害が保障されています。だから、教育委員は、きょう朝来て、帰るでしょう、その途中で事故があれば公務災害の認定を受けるのです。ところが、本日いらっしゃっている傍聴の人にはありません。こちらはみんな公務で来ていますけれども、そこは違いがあるのですね。だから、ボランティアで勝手に行ったということは、何か事件が起きたら補償できるかといったら、できないのですね。例えばボランティアの人が子どもたちの中で事故があったときに、その人の位置づけをしっかりとしないと、学校の行政訴訟としても行政の責任が負えなくなりますから、それは当然教育委員会もそうでありますから、その辺の位置づけをしっかりとすることでそれが決まってくるだろうと思っています。

**○伊藤教育長** ちょっと意見が違うかもしれませんが、学習支援ボランティアという制度できちんとそれは保険も入っていますし、補償していますし、今、各学校でかなり、年間で言うと180回ぐらいほかの人たちが入っているのですね。その制度はきちんと確立しています。その報酬は、高い低いはありますけれども、もちろん非常勤の講師として、教員のレベルで出すとき、我々はその対価を払いますけれども、それ以外の方については一応、本当に少ないですけれども、1日1,000円、1回1,000円という形で払っている。その1,000円を払うことによって、ボランティアにはこれだけの約束を守ってもらいますよと、きちんと渡してやっています。私が望むのは、例えば仕事で来てもらった人には意味があまりないのですね。地域に住んでいる子どもたちへの思いがある人たちが来て、やはりボランティア精神がそこには必要。でも、子どもたちとかかわったことによって、その人がやってよかったとか、元気をもらえたなというものにしていきたくて私自身は思っています。

先ほどコミュニティ・スクールの話がありましたけれども、私自身は、例えば地域の自治会と一体化しなくても、具体の案を実は持っていますけれども、今はこれを示せない、5時間ぐらい話し合わないと進まないのでもやりませんが、空論に終わることは絶対ないです。確実に学校はコミュニティ・スクールによって変わります。そして、地域の方々、そこに住んでいるという意味での人たち。もちろんこれは地域だけでなく、全市として、例えば上星小学校でも、門沢橋小学校に市の人としてすごい力のある人だったら、それを呼ぶことは可能です。そういう意味で進めたいとは思っていますので、その辺は少し意見が違うかなと思います。でも、空論に終わることは絶対しません。

**○内野市長** 考え方、意見は違ってもいいのですけれども、教育行政と制度はまた違いま

すから。その部分で、このプラン、1つ柱ができていますから、これを具現化するのは教育委員会で議論していただきたい。その環境整備は行政、市長としてもやっていきたいと思っています。

酒井委員が言った、1つだけ、私、思うのですけれども、やはり基礎的学力は必要なのです。これはもうないといけない。その上に立って、問題解決能力とかが生まれるので、基礎的知識がない者に解決能力は絶対ありません。これはもう当然でありますから、やはり基礎的学力の必要性というのは前提となると私は思っています。これは教育長が、あるいは教育委員の皆さんが議論すべきだと私は思っています。

なぜかといいますと、具体的な話をするのですけれども、例えば市の採用職員の試験をやりますね。優秀なのです。論文を読んでも、内容もある程度しっかりしている。1つだけ問題があるのです。字が汚い。今100人応募していますけれども、例えば200人の中で市に入るときの動機なんかを書かせると、そのうちの1割ぐらいですよ、きれいだと思うのは。あとは丸文字だったり、オタマジャクシがこっちに行ったり、こんな感じで。だけれども、内容はしっかりしているのです。何でこんなに字が汚いのかなと思うと、やっぱりパソコンの影響だと思います。書かないということなのです、子どものころから。だから、私も字が下手なのですけれども、私より下手なのです。そうすると、論文が幾らよくても、見る気がなくなるのです。戒名だってそうでしょう。そういう基礎的能力って、やはり必要だなとつくづく感じています。そういった部分で、今後このプランを中心として、教育委員会でこれからどうやっていくか。短時間に、途中でもよいですから具体的に出していただいて、行政としてどう教育行政をフォローができるか、組み立てができるか、それをやっていきたいと思っていますので、本日の段階ではよろしいでしょうか。

保護者の方で、これに対してここだけは言っておきたいという人はいらっしゃいますか。よろしいですか。

---

○内野市長 次に協議事項(2)「海老名市部活動方針について」を議題といたします。

それでは、2番目の、そういったことにおける具体的な部活動の問題について事務局から提起をお願いします。

○教育支援課長 それでは、資料で言うと4ページになります。海老名市部活動方針についてご説明をさせていただきます。

海老名市部活動方針は1月の教育委員会定例会で審議、策定をしたもので、今度の4月から全ての中学校において実施していくものでございます。この方針案の作成に当たっては、外部の方にもたくさん入っていただきまして検討委員会というものを設置いたしまして、5月から全7回、会議を開いて協議をしてまいりました。それと並行して、校長会やPTA会長会、現場の顧問の先生、種目の代表の先生方を窓口としながら、顧問の先生方にも協議をしていただきながら作成してきたものでございます。

それでは、中身についてご説明をいたします。

まず初めに、市としての部活動の狙いを定めました。これまでは部活動の狙いというところ、学校ごと、特に部活動ごとにつくっていることが多かったのですが、市の方針を固めるに当たって、市としての部活動の狙いをはっきりと持って、これから活動していくというものでございます。全部で3つありますけれども、1つ目は目標や課題に向かって粘り強く努力をする。そして、達成感や成就感を味わう中で自分自身を高め、よりよくしようとする力を育てる。

2つ目は仲間とのつながり、きずなを深めて、多くの人と進んで関わって、自分を発揮する力を育てる。

3つ目に、生涯にわたって主体的にさまざまな活動に取り組み、生活をより楽しく、豊かなものにしようとする力を育てるというものでございます。この3つの狙いに沿って、具体的な施策を方針として3つ出しております。

1つ目が具体的な活動日数と活動時間についてでございます。規定といたしまして週1日の休養日を設定する。これは部活動ごとに、うちの部活は、今週は月曜日がお休みとか、同じ曜日でなくてもいいのですけれども、来週はこの日がお休みというふうに設定をしていくものでございます。それから、始業前の朝の活動、いわゆる朝練は週4日以内。月火水木金と5日間ありますけれども、全部をやるのではなくて、週4日以内とする。夏季休業中は3日以上連続休養日を設定するというものでございます。

そして、配慮事項といたしまして、土日の活動については、両日活動する場合でも、どちらかは半日以上休養時間を設定する。土日両方とも1日練習というのではなくて、少なくとも両方やるのでも、どちらかを半日にするというものです。そして、長期休業中の活動については、終日活動の連続は2日までとする。いわゆる1日練習は3日続けては、やはり体の負担を考えて行わないというものでございます。

もちろんこれについては、この2つの部分については例えば大会が3日連続したらどう

するのだろうか、顧問からもそういう質問は出ておりますので、例外というものもございいますが、それは校長会で足並みをそろえて、こういう場合は例外を認めるけれども、それ以外はこれに沿っていくというような形で進めてまいります。

この活動日数と活動時間の管理方法ですが、まず顧問が月ごとの活動計画書を作成し、校長に提出する。学校長が内容を確認して、許可し、その許可した活動計画書を印刷して、生徒、保護者に配付するという形で管理してまいります。

続いて、具体的な方針の2つ目です。外部指導者についてです。先ほども話がありましたけれども、これまでも外部指導者、いわゆる教員以外で地域の方等に部活の練習をお手伝いいただいているということはやってきておりまして、今年度で言うと56名の方に中学校に入らせていただいております。今度4月から新たに部活動指導員という制度を導入してまいります。この部活動指導員というのは、平成29年の4月から国で認められた制度でございます。役割としては顧問にかわって活動計画を立てたり、校外活動の引率を行ったりすることができるものでございます。顧問がいない場合、顧問となり得ることもできるというのが国の規定でございます。市教委が任用して、学校からの申請で派遣をしております。そして、市教委、学校が主催する研修を複数受講する形といたします。この研修の受講については国の規定でも定められて、義務づけられているところです。そして、これまでの外部指導者は、名称を部活動支援員として派遣を継続してまいります。

続きまして、3つ目の方針です。医療との連携でございます。整形外科医師にご協力いただいで、それぞれの中学校を訪問していただこうと考えております。そして、運動部の子どもたちとそれ以外の希望する子どもたちを考えているのですが、成長期特有の体の仕組みであるとか、けがの防止と対応等の医学的な講演をしていただきます。そしてスポーツトレーナーの学校派遣ということで、スポーツトレーナーはもう少し具体的なこのようにやるのだよということを、例えば効果的なトレーニング方法であるとか、けがを防止するための方法を具体的に指導していただくということを考えております。顧問や外部指導者が知識を持つことはもちろんなのですが、子どもたち自身が正しい知識を持って、けが等を予防していくことが大切と考えております。

以上が部活動方針の主なものでございます。今後のスケジュールといたしまして、この2月から一部の部活動で既に試行を開始しております。有馬中学校の全部活動、有馬中学校の校長先生が検討委員会の副委員長でいらっしゃいましたので、有馬中学校については全部活動で2月から試行しております。種目ごとに1つの部活動、種目ごとに顧問の集ま

りがありまして、代表顧問がおりますので、その代表の顧問が2カ月間、月間計画を規定に従ってつくって、校長の許可をもらってというシステムをやってみて、細かい運用等を見直しながら4月、全面実施という形で進めてまいります。3月に部活動方針を保護者の方、もちろん生徒にも周知のためのリーフレットを配付したいと考えております。

**○内野市長** これにつきましては、もう1月の教育委員会で方向は決定したのですよね。問題ないということですのでよろしいですね。

保護者の方、これについてありますか。中学生をお持ちの方とか。よろしいでしょうか。

初めてのことなので、意外とこの部活動についてはもう去年から総合教育会議で話題になって、先生の負担軽減ということで始まりましたが、ここまで具体的にやっていくということは神奈川県下でもスタートが早いと思っていますので、どうか学校の計画書等も顧問の先生の負担にならないように。どういう形で出すかということと、もう1つは、初めて予算にも医療との連携と入っているのですけれども、これについては私も定期的に整体に行くのですけれども、子どもたちがものすごく多いのですね。子どもの足とか、腰とか、小学生もいらっしゃいます。そういった面では、子どもに合った練習の仕方とか、いろいろあるので、初めてスタートしますからいろいろ研究しながら、1年に一遍ではなくて、1学期やったらどうだったのかということで教育委員会で議論していただいて、自由にさせろということであれば私ども市部局でも考えていきたいと思っていますので、1年間やったらどうかではなくて、1カ月か、数カ月たった後に子どもの実態を検証していただきたい。もっと必要ならばそういった部分の予算づけをして、子どもたちが健康に育たないといけませんから、それをお願いしたいと思っています。

もう1つは、私ども今年の4月から、えびなこどもセンターということで、教育委員会が2月18日に保健相談センターに移転しますけれども、あそこは子どもたちの拠点になります。よって、今まで各学校に養護の先生がいらっしゃいましたけれども、担当の保健師をきちんと教育委員会に配置します。そうしますと、いわゆる未就学までの子どもの母子の健康、そのデータが学校に行って、うちの担当の保健師と養護の先生が連携を図って、子どもたちの9年間の健康を守っていこうという考え方で進んでいますので、どうかそういったものも認識をしていただきたいと思っています。学校の関係は、向こうに行って、保護者の皆さんがここに来て、向こうに行かないといけないという問題がないような手続上の問題でやっていますけれども、今まで5階にあった教育委員会が全て保健相談セン

ターに行って、1階はゼロ歳から6歳を対応します。2階が教育委員会、3階が子ども相談とか、支援をやる場所になりますので、そういった面、広報等で見ていただければわかるようになりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思っています。

では、これについてはスタートしますので、今後できるだけ検証していただきたいと思っています。また、その辺に問題があれば総合教育会議でいろいろな議論をしていきたいと思ひますし、教育委員会でも前提として議論していただきたい。

-----  
○内野市長 それでは、協議事項(3)「海老名小学校の児童からの学校生活に関する提案について」を議題といたしますが、こちらについては司会の教育部次長へ一旦進行を戻します。よろしくお願ひします。

○教育部次長 それでは、これよりレイアウト変更をさせていただきますので、会場の皆様におきましては、いましばらくこの場でお待ちいただければと思ひます。

〔レイアウト変更〕

○教育部次長 会場のレイアウトが整いました。

それでは、改めまして、協議事項(3)の海老名小学校児童からの学校生活に関する提案についてご説明をさせていただきますと思ひます。

当協議事項につきましては、冒頭で申し上げましたとおり、海老名小学校の児童から直接、市長、教育委員会に学校生活に関する提案をいただきます。この提案事項を受け、市長、教育委員会が議論をするものでございます。この協議の狙いといたしましては、学校のことを大人目線だけではなくて、子どもたちの新しい発想、あるいは柔軟な考え、そして夢のある提案をお聞きし、教育施策の参考にしていきたいというものでございます。

それでは、海老名小学校の児童の皆さんに入場いただきたいと思ひます。ご来場の皆様、大きな拍手でお願いいたします。

(海老名小学校児童入場、拍手)

○海老名小学校児童1 こんにちは。私たちは海老名小学校6年の運営委員、クラスの代表委員です。本日はこのような機会をつくってくださり、ありがとうございます。せっかくの機会をいただいたので、本日は海老名小学校がもっとよくなるようなことについて提案をさせていただきます。

私たちはまず、クラスで話し合いをしました。卒業を控えて、大好きな海老名小学校に通うことはもうできなくなりますが、6年間過ごしてきた中で、もっとこうなったらとい

うことをみんなで話し合いました。下級生がもっと安全で、楽しい学校生活を送れるように私たちが思いを発表します。1人2つずつ提案します。聞いてください。

まず、私から1つ目の提案です。それは、テレビ朝会ができるようにしてほしいということです。海老名小学校は1学年4から5クラスある、市内で一番児童数の多い学校です。その分、楽しいこともたくさんありますが、困っていることもあります。それは、雨が降ったときに朝会や始業式などが体育館でできないことです。全員が一斉に入れないので、クラスで行うことしかできません。そうすると、放送でしかできなくて、資料などや先生たちの顔が見られません。歌の指揮もないので、式などのときは少し寂しい気もしました。

そこで、どうか各クラスにテレビ朝会ができるようにしてほしいのです。または、今、各クラスにプロジェクターをつけてもらっています。なので、そこに流れるようにしてほしいというのが1つ目の提案です。

2つ目は、大きなサッカーゴールでサッカーがしたいということです。海老名小学校には低学年、中学年用の小さくて、簡単なものしかありません。それは、休み時間、大勢で遊ぶので、仕方がないことだとわかっています。でも、体育の時間だけは思いきり体を動かしたいとサッカーが大好きな男の子たちが言っていました。いつも休み時間、下級生のことを考えて遊んでいるので、きょうは大きなサッカーゴールでサッカーがしたいということを提案させてもらいました。

私からの提案は以上です。よろしくお願いします。（拍手）

**○海老名小学校児童2** 私からの1つ目は、机のタイプをそろえてほしいことです。今は高さを変えられる可動式のもの、変えられない固定式のものを使っています。高さが違うので、手を挟んでしまったり、隣の人と一緒に作業するときなどがとても不便です。きっと低学年はもっと大変だと思います。そして、フックが両側についてほしいです。海老名小学校には支援級の友達が多くいて、廊下には体操着などかけられないようになっています。その分、自分の机のフックが重要になります。机のフックには意外とたくさんかけるものがあります。給食袋や音楽セットなどです。一番かけたいものは辞書で、気づいたときにすぐ引くために、これだけはロッカーや教室の横にはかけず、どうしても机のフックにかけたいのです。

2つ目は、学校の中に気軽に話せる相談室のようなものが欲しいです。家での悩み、学校で起きたささいなこと、将来などについても、もし気軽に話せたら、きっと心が軽くな

と思うからです。もちろん担任の先生に聞いてもらうこともあるのですが、ほかにもそんなことが言える部屋があって、いつも聞いてくれる相談員さんがいたら安心だと思うからです。

私からの提案は以上です。よろしくお願いします。（拍手）

**○海老名小学校児童 3** 僕からの1つ目は、プログラミングを学校で学習させてほしいということです。今いろいろなところでプログラミングが注目されています。学校でもぜひやりたいという意見がクラスから上がりました。いつもたくさんのことを教えてもらえるふだんの授業も楽しいけれど、専門の方にも教えていただいたりして、自分たちで作り出せる楽しさを味わえるなら、ぜひ小学校でもやらせてほしいです。

2つ目は、トイレの手洗い場のセンサーを修理してほしいということです。僕たちは東棟と西棟の教室に分かれています。西棟の校舎は建て直してもらったため、新しくて、きれいです。どことなく明るさも違い、西棟は気持ちがいいです。トイレも床や壁、水道が違うだけで、全然雰囲気が変わってきます。西棟の水道などはセンサーがついていて、手を出すと自動で水が出てくれます。とても便利で、水の節約にもなるのですが、センサーが反応しづらくなっていて、水が出ないときがあって、困っています。きれいな校舎を保てるように僕たちも掃除を頑張っていこうと思います。

私からの提案は以上です。よろしくお願いします。（拍手）

**○海老名小学校児童 4** 私からの1つ目は、門の前に柵やガードレールをつけてほしいことです。ヤマダ電機やデニーズなどがある大きな道路に学校の門があります。前に1年生がかぶっていた黄色の帽子が飛んでしまい、それを追いかけた危険なところを見ました。ボールが道路に出てしまい、車がボールを踏んでしまったということもありました。交通量の多い道路のすぐ横にあるので、柵などがあって、どうにか安全で安心できるようにならないかとクラスで考えました。

2つ目は、体育館の温度調節ができるようにしてほしいことです。校庭が狭い私たちの学校は、クラス数が多くて、体育館を使えることも少ないです。だから、いつも体育館体育がとても楽しみです。ですが、夏などは、窓を全部開けてもとても暑くなってしまいます。熱中症なども心配で、体育館のほうがか危険なこともありました。冬も書き初め大会がありましたが、寒くて、手がかじかんでしまったこともありました。もし温度調節ができるようになったら、どんなによいだろうと思ってお願いすることにしました。

私からの提案は以上です。よろしくお願いします。（拍手）

○海老名小学校児童 5 私からの1つ目は、海老名中学校の体育館側にある桜門より高いフェンスをつけてほしいことです。桜門の近くではたくさんの方がボール遊びをして遊んでいます。もともと校庭が狭いので、ほかの場所でやることもできず、みんなで譲り合っている中で、仕方なくそこでボール遊びをすることになっています。ですが、やはりボールが学校の外に出てしまい、危険です。もし今ある緑のフェンスがもう少し高くなって、長さもあつたら、安心して思いっきりボール遊びができると思いました。

2つ目は、また門になってしまうのですが、緑門と言われている校舎東側の門の階段についてです。そこにはとても急な階段があつて、下りは特に危険です。この前の雪の日もすごく危なくて、何人も転んでしまいました。人数の多い海老名小学校では、たくさんの門から出入りすることで混雑が減っています。それでも、雨の日など傘を使う日は1列でおりにくことしかできないので、階段の上から下まで長い列ができてしまっています。また、前の人の傘で階段が見えないのも危険です。ですので、急な階段に手すりをつけるなどの手だてができたならうれしいです。

私からの提案は以上です。よろしくをお願いします。(拍手)

○海老名小学校児童 これですべての提案が終わりました。たくさん聞いてくださり、ありがとうございました。もうすぐ私たちは海老名小学校を卒業します。これから過ごす下級生たちのためにも、海老名小学校がもっともつといい学校であつてほしいと思っています。

どうぞよろしくをお願いします。ありがとうございました。(拍手)

○海老名小学校児童全員 ありがとうございます。(拍手)

○教育部次長 ありがとうございます。

それでは、ご提案いただいた各項目について教育委員会事務局からご回答をさせていただきます。

○教育支援課長 それでは、1つ目のテレビ朝会についてですけれども、テレビ朝会を何とかできるように、これから方法を考えていきたいなと思います。もしかすると、テレビ朝会だけではなくて、例えば6年生が修学旅行に行ったときに、学校にいる人たちに向けて生中継。例えば「今、私たちは華厳滝に来ています。5年生の皆さん、見えますか」なんていうこともプロジェクターとかでできるようになるかもしれないと思っています。

○教育総務課長 私からは、2つ目の大きなサッカーゴールでサッカーをしたいということでございます。確かに海老名小学校のグラウンドは、児童数が多いということで狭いの

ですけれども、その中で皆さんが休み時間とか授業で思いっきり遊んだりできるように、中学校のグラウンドを使いながらということを先日、校長先生に相談しました。そうしましたら、中学校の校長先生に相談をしていただけるということでしたので、中学校のグラウンドが使えるようになるといいなと思っています。これからも校長先生と一緒に考えていきたいと思っています。

**○教育総務課施設係長** 机のタイプについてなのですけれども、皆さんからお話いただいたように今は身長に合わせて高さを変えられる机にかえております。先生からお話を聞いた中で順番にかえていきますので、少し時間はかかってしまうかもしれないのですけれども、そのタイプのほうにかわります。フックについてはないと不便だと思います。ただ、こちらのことについてはほかの学校も一緒だと思いますので、ほかの学校のことでも聞いた中で対応したいと思いますので、よろしくお願いします。

提案ありがとうございます。

**○教育支援課支援係主幹** 6年生の皆さん、ご提案ありがとうございます。私からは、学校の中に気軽に話ができる相談室が欲しいについてお答えします。教育委員会も、海老名小学校の先生方も、やはり子どもたちが気持ちよく登校し、1日充実した生活を送り、満足して下校してもらうことを願っています。その中で学校というのは友達とのかかわりであるとか、学習とのつながり、行事との関係とか、いろいろ気持ちがめぐることもあると思うのだけれども、まず、1人で抱え込まないで、苦しくなったり、心がちくちくする前に、まず先生方に相談してほしいなと思っています。担任の先生でも、身近な先生でも、相談しやすい先生に相談してください。親身になって相談に乗ってくれると思います。

**○教育支援課長** 5つ目のプログラミング学習についてです。来年から少しずつプログラミングの学習を始めていきたいなと思っています。そういう中で、さっき提案してもらったように、そういう専門の知識を持った先生に教えてもらうということも出てくると思います。ことしから夏休みに大学の先生たちが一緒にプログラミングを教えてくれる教室を始めたので、来年からもそれにたくさんの人が参加してくれるとよいなと思っています。

**○教育総務課施設係長** トイレのセンサーの件についてなのですけれども、教頭先生に場所を聞いて確認しましたので、直すまで、少しお時間を下さい。あとまた、違う場所でそういうことがありましたら、教頭先生にお伝えいただければこちらで直すようにしますのでお願いします。

**○就学支援課長** 5名の皆さん、私からのお答えなのですが、1番から10番まで、とても提案がわかりやすく、いっぱい練習しました？ あまりにすばらしくて、答えるこちらが緊張してしまっているのですが、7番目のものに答えたいと思います。正門付近は確かに自転車や車の交通量が多くて、通学している皆さんも毎日安全に気をつけながら通っているのかなと思います。特に皆さん、本日はこの中に班長さんはいますか。手を挙げてください。班長さん、大変ですよ。いつもありがとうございます。ただ、この正門の前に柵をつけたりとなると、給食の配膳車が入れなかったり、入れるのが難しかったりということもございますので、当面のところは今、何とか認可していただいたのですが、とてもわかりやすい飛び出し注意の看板が2つつけられましたよね。ああいうのを班長さんあたりが、特に小さい子たちに話してあげながら、飛び出し、危ないよという看板を見ながら話してあげるととてもよいかと思います。児童会や何かでもいろいろ話し合いをしながら、注意喚起を呼びかけてもらいたいなと思っています。こちらもよい提案ではないかなということで、考えていきます。

**○教育部次長** 私からは、体育館の温度調節ができるようになってほしいというご提案についてお答えしたいと思います。市内の小中学校は30年以上たつような建物がたくさんあって、かなり古くなっているということがあります。今ご提案していただいた温度調節については市長からお話があったようにいろいろな研究はしています。今、学校の古くなった建物を整理しようということで考えて、計画をつくっていますので、その中で整理していければなと思っています。

**○教育総務課長** 私からは9番目、桜門より高いフェンスをつけてほしいという要望です。確かにボールが飛び出すと危ないと思いますので、どのようにすればボールが飛び出さないようにできるかというのは考えていきたいと思っています。

また、先ほど少しサッカーゴールのお話をしましたけれども、校長先生が中学校の校長先生に相談をして、グラウンドを使えないかということでした。ですので、ぜひグラウンドが使えるようになるとよいなと思っています。

**○就学支援課長** それでは10番目、緑門の狭くて急な階段に手だてをとってほしいというところなのですが、国分南三、四丁目の皆さんは緑門を使っているのかな。私も早朝に行って、おりてみました。また上ってきました。確かに皆さん言うように急で、1列にならないととても通れないようなところで、班長さんを初め、きちんと安全に気をつけながら利用しているのだろうなと思いました。特にさっきお話が出ましたけれども、雪などのと

きに私も通りながらちょっと心配になりました。どのようにして通っているのかな。雪をどかしながら安全を確保するというのもありますが、あまりに雪が降るときには、少し遠回りにはなってしまいますが、正門に迂回するなりというのをこちらでも学校の先生方に相談しながら、皆さんが安全に登校できるような形で考えていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**○教育部次長** 事務局からの回答は以上です。

それでは、皆さんからの提案、そして事務局からの回答を踏まえて、市長、教育委員の皆さんでご議論いただければと思います。市長、司会をよろしくをお願いします。

**○内野市長** これは議論する場なの？ 議論してしまったら、あなた方、こちらから責められるよ、はっきり申し上げて。どうしますか。何かありますか。

なければ一括で私が言おうか……。私から言ってよろしいですか。私が言ってしまうと終わりになってしまうのですけれども。

これは予算に係る問題ばかりなのですよ。3つぐらいに分かれるのですね。

1番、3番、5番、6番は即実施をしてやってください。この問題は何かというと、私も初めて朝会が海老名小学校でできないって、それだけの人数がいるからできないというのがわかりました。それについては小宮教育支援課長、朝会にかわる電子黒板を活用するのでしょうか。校長先生がカメラの前でしゃべってれば、映るようにしてあげればよいのだから、初めてそういうことをやってみたらどうですか。そういった部分で活用できると思います。

3番については、加賀教育総務課施設係長、話を聞いていてわからないのだけれども、子どもたち、児童は大体7,500人いて、それが上下する。そうすると、クラスごとに全部かえていないのですか。

**○教育総務課施設係長** 学校でその子どもに合わせて、高さのある程度調節しているようです。

**○内野市長** 全部はかえていないのだ。では、教育委員会は全部かえるつもりなのですか。

**○教育総務課施設係長** 今は高さ調節のできる机にしていますので、順番で古いものからかえていきます。

**○内野市長** そうすると、こうやるべきなのですよ。クラスを統一して、高さ調節をやるのなら、全学年ではないけれども、高さ調節が必要な学年を先行的に全部やっていくと

か。だって、それを全部やらなければ、何個必要かという予算があるではないですか。そうすると、例えば1つの机で1万円かかったとしたら、7,500万円かければ全部できてしまうわけです。その部分で何が必要なのかというものを考えないといけない。子どもが使うものだから。昔はそんな高さ調節はなかったし、木の机で重たかったけれども、なかなか情緒があって、長く使えるわけ。こうやって開くやつだったの。だから、どうかやるならやるということで予算の中で組み立てをして、ちょこちょこやらないで、一斉にやっけてしまってもらいたい。だから、子どもたちがそんなところでは、机が前後して、周りができない。今の机って、ほとんどもう机の引き出しなんかなくて、今、事務職もそうだけれども、キャスターつきなのですよ。だから、机は1つあって、キャスターを動かせばどこでも行けるというタイプで今行政はやっていますから、そういった部分でいろいろ進化をしているので、考えてやっていただければよいと思います。

5番は小宮教育支援課長、やるのですよね。来年度4月から小学校にiPadが入るのですよ。タブレットが。

○伊藤教育長 予定なのですが、機械なので予算が……。

○教育支援課長 6月です。

○内野市長 6月からタブレットが入って、タブレットで授業をやる。プログラミングのパソコンの関係は、中学校は教室をつくって、やはり専門的な講師を呼んでやっていこうという形で考えていますから、これは来年度楽しみにしてください。

6番は、加賀教育総務課施設係長、すぐやってやってください。調整できるのだから。

○伊藤教育長 やっているのですよ。

○内野市長 時間を下さいではなくて、明日行って、やってきてください。トイレの調整ぐらい。

○伊藤教育長 修理できますから。

○内野市長 7番、9番、10番は学校の施設の問題で安全会議があるので、私も正確にわからないのだけれども、少し教えてくれますか。東側入り口の緑門って、どこですか？こちら側？

○伊藤教育長 国分寺台の上のほう。

○内野市長 駐車場があるところですか。

○伊藤教育長 段差の上のほうからおりてきて、その途中から階段でおりにところがあるのですよ。本来ならずとあそこ……。

○内野市長 それは昔なかったところにつくったの？

○伊藤教育長 前からあるのですよ。

○内野市長 これ、手すりをつけていないね。

○酒井委員 手すりは80センチぐらいの高さなんです。

○伊藤教育長 あります。

○酒井委員 片面側しかついていないので。

○内野市長 ああ、両面をつけるということですか。これは、とりあえず門扉を動かせばいいではないですか。これはやらないとまずいのではないですか。

○酒井委員 危ない。

○内野市長 危ないよな。

○酒井委員 危ないです。傘を差していると……。

○内野市長 だから、安全管理の問題は特にやってあげてくださいよ。

門の前に柵やガードレールをつけてほしいって、いわゆる飛び出し注意で、奥泉就学支援課長、子どもは飛び出すから子どもなのですよ。だから、ボールが行ったりしないようなものを考えると。ネットでもいいし。給食の配膳車が来たら、そのネットをこうやるとか、あるではないですか。ネットカーテンとか。そういうことで考えればお金もかからないのではないかなと思うのです。だから、7、9、10番というのは安全対策として今後検討してもらって、中学生はよいとしても、小学生は安全管理が必要なので、その部分は徹底して整理をしていただきたいと思っています。

最後に2番と8番なのです。サッカー場が狭いとか、8、体育館の温度調節。小学校のグラウンドが狭いから、例えば運動公園に体育の時間は行くといったら、行きますか。バスで。

○伊藤教育長 行かない。

○海老名小学校児童 それだと体育の時間が減ってしまうので、できれば近いところでやりたいと思います。

○内野市長 そうでしょう。体育館もいろいろ実験させて、ここの部屋を見ると空調がこれだけあるのね。なぜこれをつけたかという、この空調は非常時にここが災害対策本部になるのですよ。だから、つけたのですね。この庁舎は一括空調になっていて、今、個別化が始まっています。学校もそうなのですけれども、個別化にいずれなる。非常電源がそんなに供給能力がないので、最低限度、ここだけはやろうということやってあります。

体育館も言ったのですよ。大きなダイキンのエアコンを4体ぐらいつけて、実験をやってくれとって、やっているのですよ。やったら、効果がないと言うから、それで終わっているわけです。効果があるか、ないかというのは先生や教育委員会が考えることではなくて、子どもたちが考えることだと私は思うのです。だって、卒業式、寒いではないですか。小学校と中学校。寒くて、いられないではないですか。ストーブをつけると、うるさくてしょうがないし。

避難所の扱いをされているから、再配置計画があるのだけれども、どうしても残る体育館は先行してやるべきだと私は思いますよ。それはなぜかという、保護者の皆さん、観念的にこういうことなのですよ。市の運動公園、北部地区公園の体育館には空調がなかったのです。なぜかという、スポーツは汗をかいてやるものだ。だけれども、そんなことをやったら、競技全体ができないときがたくさんあるのです。それで、運動公園と北部は空調を設備しました。これは避難所とか、いろいろあるので。学校もそうなのですよ。避難所となった場合、集まりますから、やっぱり空調は必要だ。高校へ行くと、海老名高校はそうですけれども、今市の小中学校全部にエアコンが入っていますけれども、海老名高校や公立高校は全部保護者の皆さんがリースで負担をしています。海老名高校は去年か、一昨年、空調をやったのですね。それはPTA会費に上乗せされています。県はお金がないと言うのです。うちはつけたのですけれども、体育館まで今はいっていないのですね。これをどうするかという問題は教育委員会に提案してくれという話をしていますので、その問題があります。

もう1つはさっきのグラウンドの問題ですけれども、例えば私も海老名中学校出身なのです。海老名中学校を卒業しました。海老名中学校のグラウンドはもっと狭かった。プールがなくなったでしょう。プールをなくして広がっているのですけれども、海老名中学校と海老名小学校はあそこにあること自体がもう無理なのですよ。1つだけ、教育長といろいろ話をしているのは海老名中学校をこちらに移したいのですよ。なぜかという、海老名小学校の保護者の皆さんがいますけれども、あそこの敷地は、3分の2が借地です。民地で借りています。年間数千万円、地権者にお金を払っています。そうすると、海老名小学校の借地を解消すると同時に、海老名中を移転させてしまって、海老名小学校を中学校のほうに全体を持ってきます。そうすると、あそこは全体が小学校になる。じゃ、中学校はどこに来るかという、この市役所の周辺にしたいのです。そうすれば、小中一貫教育がありますけれども、将来は中高一貫校を目指したいのです。海老名高校は向こうにあ

りますから。そういった面でいくと、そこで問題は、いわゆる統廃合とか移転させると、卒業生が文句を言うのですよ、OBが。大体桜を切るときに文句を言われるのは、植えた人から文句を言われます、30年前に。だから、そういった議論は今後投げかけでやりますから、当然投げかけると、もう決まったことではないかと言われてしまうのですけれども、投げかけというのは議論ですから、そういった面、子どもたちのために思った形の中で進んでほしいのです。

卒業してしまうと、あそこにあったな、中学校がなあとずっと思い出したのだけれども、私もそうだった。あそこだな。ところが、裏は何があったかという、ひょうたん山がずっとあったのです。だから、美術なんかで行くと、外へ出てしまって、みんな帰ってこないで、先生に殴られたりいろいろありましたけれども。だから、これからの再配置計画って、どこに配置するではなくて、統廃合を図った場合、やっぱり海老名中学校は北に持ってこない、今の子どもたちの要望は絶対解決できません。そういった議論がここ数年で始まりますので、いろいろな意見を聞かせていただいて。中学校がこちらに来れば、将来、中学校が減ってくるのですよ。あと20年ぐらいで減ってきたときにどうするか。海西中学校と海老中学校で統廃合です。そうすれば、海西中学校はどうするのといったら、附属棟ではないですけれども、ちゃんとそういう部分をつくれればいいのです。

だから、今までは4階、3階建ての校舎だけれども、やっぱり高くしないとだめなのですね。高くすればエレベーターを使うということ。そうすると、中学校が新しくなったとき、もう給食の心配はないのです。食堂をつくりたい。小学校を新しくつくったときは自校案にします。中学校を新しくつくったときはもう食堂です。そういった形で持っていかないと、時代のニーズに合わないなと思っていますので、構造としてはいろいろありますけれども、そういった具体的な案をやっていきたいと思っていますので、あなた方が中学生のときは無理かもしれないけれども、できるだけその部分では、中学校は中学校でまた課題がありますから、解決していきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いしたい。

この貴重な意見は、できることは即やるように、安全対策はちゃんと予算をつけてやるようにしますので、あとはグラウンドとか体育館の問題は本当に時間をいただきたいというのを市長としての回答とさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

保護者の皆さん、何かありますか。よろしいですか。

それでは、ありがとうございました。皆さん、拍手で。（拍手）

ところで、中学校へ行くと、修学旅行に行くではないですか。今、体験で行くと、農家の体験とかやっているのだけれども、この間、有馬中学校に行ったら沖縄に行きたいとか、北海道に行きたいとかあったのだけれども、みんなはどう思う？ 中学校の修学旅行はどこへ行きたい？ 行きたいところがあれば言って。今考えて。いいよ、思ったことを言って。

○海老名小学校児童 1 京都に行きたいです。

○海老名小学校児童 2 じゃ、北海道に行きたいです。

○海老名小学校児童 3 沖縄に行きたいです。

○海老名小学校児童 4 北海道に行きたいです。

○海老名小学校児童 5 沖縄に行きたいです。

○内野市長 私が思っていることであります。教育委員会の皆さん、校長先生、よろしくお願ひしますね。昔は京都、奈良でした。ちょうどそのときに大阪万博があつて、万博に1日行きました。あと2年後にオリンピックがあります。それは教育委員会と考えると、できるだけ子どもたちにカヌーとか、競技を見せたいということで、別個に考えています。だけれども、これからはこれだけ交通利便性が高くなったので、飛行機で行ってもオーケーですし、小学校は日光に行っていると思いますけれども、日光というのは時間がなくて、昔は朝6時から出て、日光にはもう昼過ぎに着きました。今は日光に行くのに3時間で行ってしまいます。そうすると、もっと先に行けるのではないか。そうすると、平泉にも行ったらという話をしています。中尊寺を見たらとか、あるいは松島を見たらといろいろなことを言っています。だから、限定をしないで、やっぱり子どもたちがよいなと思うのですね。

地方の修学旅行は、白石市の子たちはこういう扱いをしています。1泊は横浜、2泊目は東京へ泊まるのですね。集合場所は、自由な班行動をさせて、最終的には3時にディズニーランドに集合させています。3時からディズニーランドで遊んで、ホテルへ泊まって、帰るそうです。うちらは、ディズニーランドは近くて、しょっちゅう行けるので、そういう面ではないのですけれども、やりたいですね。北海道、沖縄ね。

保護者負担が多い場合は行政が、そういった部分で目的があれば市としては補助を出してもよいなと思っています。だから、子どもたちがいろいろなところ。中学生で飛行機に乗る体験もいいのではないかなと思っています。私らの時代はあり得ませんでした。だけれども、今の子どもたちはいろいろな体験とか経験をすることが必要だなと思っています

ので、いろいろな議論を……。保護者が決めるところもありました、議論で。だから、そこで皆さんが中学校に入ったときに、こうですよと言って……。うちの孫は青森に行つて、ニンニク農場へ行つて、ニンニクの皮むきを2日間やったそうです。奥入瀬に行つたのと言つたら、行きませんと。では、どこかに寄つたのかと、寄りません、お土産はニンニクでした。そういうことでありますけれども、あとはよろしいですか。

では、頑張ってくださいね。3学期が終わると中学生ですから。それではありがとうございました。（拍手）

**○教育部次長** ありがとうございました。

それでは、事務連絡をさせていただきたいと思います。本年度の総合教育会議は、先ほどありましたように本日をもって終了とさせていただきたいと思います。また、次年度以降の総合会議については現在調整してございますけれども、詳細が決まり次第、ホームページ等でまたご連絡をさせていただきたいと思います。皆様、多くの参加をいただきたいと思います。

**○内野市長** 金指教育部次長、少しだけ聞きたいのですが。

すみません、ここで6年生の保護者の方はいらっしゃいますか。中学生の方はいらっしゃいますか。

例えば今、中学校給食についていろいろ話題になるのですよね。次回、来年度に入つたら、中学校給食を話題にしたいのですよ。2月号の広報で給食が全面的に出たのですけれども、例えばの話、中学校に入って主食、ご飯だけを、温かいご飯を週3回提供したら、副食についてはすごく楽でしょう。どう思いますか、酒井さん。

**○酒井委員** 温かいご飯が食べられるというのはすごくよいなと思います。ご飯は、やはり温かいのと温かくないのとでは味が全然違いますので。

**○内野市長** なぜそれを言うかといいますと、今、教育委員会へ投げかけをしているのですけれども、うちの食の創造館、給食センターでは米飯給食ができるようになっていきます。8,500食できるのです。ところが、使っているのは、月火水木金の5日間中、2日間しか使っていません。あと3日間は使っていないのです。なぜかというと、2日間は民間企業に頼んでいます。これは昔の経過があるので、それをやめることはできないのですね。民業圧迫で。3日分は余っているのです。だから、言いかえれば、中学校給食、完全給食ではないけれども、主食の米だけは、温かいご飯だけは届けることができるのです。今の能力で。もう少し附属棟をつければ副食も3回はできるかもしれません。

だけれども、問題は、保護者の望みって、5日間なら5日間やってよと言うのですけれども、私は3日なら3日やれば、あとの2日間は皆さんに努力してもらってもいいのではないかと思っています。当初は米飯だけでも進めていこうかなと思います。なぜかという、いろいろな話題があって、秦野の市長選挙もそうなのですから、完全給食とか、どこの選挙でも中学校給食はすごい話題になるのですよ。だけれども、その設備投資をやるには、1校やるのにすごくお金がかかるのです。だけれども、おいしいご飯が食べられれば、あとの副食程度は注文もあるし、家庭でつくるという2つに分けてもいいのではないかな。ご飯だけは温かいものにしていこうかなという考え方を持っています。これは投げかけをしていますから、この1年間、できれば半年ぐらいで結論を出していただかないと、再来年度、31年度に間に合わないのです、そういった部分で考えていますので、またアンケートなどいろいろとりたいと思っているので、よろしく願いをしたい。

○教育部次長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして総合教育会議を閉会とさせていただきます。長時間、どうもありがとうございました。（拍手）